

歯科用顕微鏡下での歯肉溝内吸引管を用いた歯周治療  
The use of suction apparatus in the gingival sulcus for  
periodontal therapy under the operating microscope

内藤歯科医院  
内藤龍彦  
Naito Dental Office  
Tatsuhiko Naito



### 「緒言」

歯科用顕微鏡下での治療は、明るく拡大された視野の確保ができるため、歯周溝内から直接ポケット深部の治療を行うことができる。しかし、術部からの滲出液や出血、器具からの注水などにより術野の確保が難しい。また、術中に組織排除も行わなくてはならないため、アシスタントワークだけでは術野の確保は難しい。この問題を解決するために組織排除および吸引を同時に行うことの出来る歯肉溝内吸引器具を開発し、その効果とそれを用いた歯周治療症例を交えて報告する。

### 「歯肉溝内吸引器具の開発」

診療台における吸引器具は、歯科用バキュームと排唾管である。メインで使用するバキューム吸引は、アシスタントが使用すること、歯肉溝内の吸引に強い吸引力を必要としないことから通常空いている排唾管を利用することとした。歯肉溝内の吸引器具に求められる条件として、1) 組織排除と吸引が同時にできること、2) 吸引器具が他の器具操作や視界を妨げないこと、3) 滅菌消毒が可能なこと、4) 治療中の清掃または交換が容易なこと、などを視野に開発を行った。

### 「使用方法」

歯科用顕微鏡下で、歯肉溝内吸引管を歯肉溝内に挿入、歯肉を排除し、超音波スケラーなどを用いて歯根面のデブライドメントを行う。その際アシスタントは、口腔内の吸引と術野確保のため、口唇などの排除を行う。

### 「結果」

- ・ 歯肉溝内吸引器具を用いた顕微鏡治療は、組織排除と術野の吸引およびデブライドメントを同時に行えるため、拡大明視野下の確保ができた
- ・ 処置と同時に動画、静止画撮影が容易になった
- ・ 深いポケットと動揺、X線画像で歯根周囲透過像などが確認できる症例において、再生治療法などの特別な方法を利用せずにレントゲン上での透過像の改善およびポケットの減少が確認できた

### 「考察」

歯科用顕微鏡を利用した歯周病治療において直視直達ができる適切なポジション・自由に使える両手・視野を阻害する要因の排除は必須である。今回開発した歯肉溝内吸引器具を利用することで上記の項目を改善することができ、歯肉溝内という狭い術野での治療に有効であった。